

年度	2026年度
研究科	法学研究科
課程	修士課程
入試方式	一般選抜試験（A日程）
試験科目	論文 <small>租税法・英語 出願時に「憲法」「民法」「刑法」「商法」「租税法」「英語」から1科目選択</small>
実施日（試験日）	2025年9月6日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由)

〈出題意図〉

本試験は、法学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が志望する専門分野に関する基礎的知識を有しているかを確認するとともに、それらを活用して論理的かつ多面的に思考し、記述する能力を評価することを目的としている。

設問は専門分野の基礎的トピックを中心に構成されており、受験者が各自の観点から論述する形式を採用することで、専門知識の修得状況と学問的思考力の双方を評価できるように設計されている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・ 設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・ 各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・ 論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。
- ・ 英語については、前述の内容に加え、読解、ライティング、文法、表現の各能力が示されているか。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではなく多様な論述の仕方がありうるため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。

年度	2026年度
研究科	法学研究科
課程	修士課程
入試方式	社会人特別選抜試験（A日程）
試験科目	小論文
実施日（試験日）	2025年9月6日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由）

〈出題意図〉

本試験は、法学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が社会人として大学院で研究を行うにあたり、自身のキャリアと大学院での学びをどのように結び付けているかを明確に示す力を確認することを目的としている。

この設問は、単なる研究志向にとどまらず、社会人としての経験を踏まえた現場視点と研究を統合するビジョンを有しているか、さらにその成果を社会へ還元しようとする未来志向の姿勢を評価することを目的としている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・ 設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・ 各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・ 論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではなく多様な論述の仕方がありうるため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。

年度	2026年度
研究科	法学研究科
課程	修士課程
入試方式	一般選抜試験（B日程）
試験科目	論文 <small>租税法・英語 出願時に「憲法」「民法」「刑法」「商法」「租税法」「英語」から1科目選択</small>
実施日（試験日）	2026年2月8日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由)

〈出題意図〉

本試験は、法学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が志望する専門分野に関する基礎的知識を有しているかを確認するとともに、それらを活用して論理的かつ多面的に思考し、記述する能力を評価することを目的としている。

設問は専門分野の基礎的トピックを中心に構成されており、受験者が各自の観点から論述する形式を採用することで、専門知識の修得状況と学問的思考力の双方を評価できるように設計されている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・ 設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・ 各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・ 論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。
- ・ 英語については、前述の内容に加え、読解、ライティング、文法、表現の各能力が示されているか。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではなく多様な論述の仕方がありうるため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。

年度	2026年度
研究科	法学研究科
課程	修士課程
入試方式	社会人特別選抜試験（B日程）
試験科目	小論文
実施日（試験日）	2026年2月9日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由)

〈出題意図〉

本試験は、法学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が社会人として大学院で研究を行うにあたり、自身のキャリアと大学院での学びをどのように結び付けているかを明確に示す力を確認することを目的としている。

この設問は、単なる研究志向にとどまらず、社会人としての経験を踏まえた現場視点と研究を統合するビジョンを有しているか、さらにその成果を社会へ還元しようとする未来志向の姿勢を評価することを目的としている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・ 設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・ 各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・ 論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではなく多様な論述の仕方がありうるため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。

年度	2026年度
研究科	法学研究科
課程	修士課程
入試方式	社会人特別選抜試験（C日程）
試験科目	小論文
実施日（試験日）	2026年3月8日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由）

〈出題意図〉

本試験は、法学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者が社会人として大学院で研究を行うにあたり、自身のキャリアと大学院での学びをどのように結び付けているかを明確に示す力を確認することを目的としている。

この設問は、単なる研究志向にとどまらず、社会人としての経験を踏まえた現場視点と研究を統合するビジョンを有しているか、さらにその成果を社会へ還元しようとする未来志向の姿勢を評価することを目的としている。

〈採点時の観点〉

採点時の観点は以下のとおりである。

- ・ 設問の趣旨を正確に把握し、論点に的確に応答しているか。
- ・ 各専門分野に関する基礎的な概念や用語を正確に理解し、適切に用いているか。
- ・ 論理構成が一貫しており、主張と根拠の関係が明確で、説得力のある記述となっているか。

なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではなく多様な論述の仕方がありうるため、内容の正確性に加えて、論理性・一貫性・表現力を含む総合的な観点から評価する。